

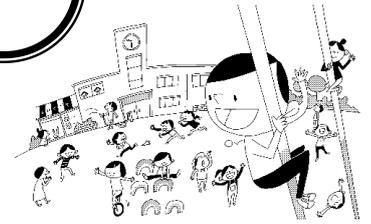
どうとくのひろば

2年生の道徳の授業

主題名:相手のことを考えて

ねらい:【親切、思いやり】

教材名:「まいごのすず」



あらすじ:下校中、鍵を拾ったゆうきとまさや。ゆうきは先生に届けようと言うが、まさやは映画に遅れると言う。二人は悩んだ末、笑顔で鍵を届けに行く。

授業での具体的な様子

まずはみんなの気持ちから

授業のはじめに、親切についてのアンケートをしました。多くの子供が、「親切にできている」と答えましたが、中には、「相手や状況によって、親切ができないときがあるんだ」という意見もありました。そこで、親切について改めて考えることになりました。

下校中、鍵を拾ったらどうする?

教材文を読んだ後、クラスでは、「届ける・届けない」で気持ちの揺れを心の数直線にして考えました。届ける人は、「映画も見たいけど、困っている人がいるかもしれない」「人のためになるなら届ける」、届けない人は、「困っている人がいるかもしれないけれど、映画を楽しみにしていた」「映画に間に合わなくなるのは嫌だ」と、心の揺れも感じつつそれぞれの立場で考えました。



【自分の立場を表出する様子】

親切のよさについて自分の言葉で表現

親切のよさについて、自分の言葉で考えてみました。「相手が喜んでくれる」「自分もいい気持ちになる」「親切のリレーのように、まわりまわって、自分に返ってくる」と親切のよさについて表現しました。



【立場の理由を表現する様子】

情けは人の為ならず

最後に、「情けは人の為ならず」という言葉も紹介しました。これは、「人に優しくすれば、それはまわりまわって自分によいことが返ってくる」という意味です。振り返りでは、「誰にでも優しくできる人になりたい」「親切のリレーをしていきたい」と考えていました。これからも、自分の心に耳をすませて、「親切のバトン」をつなげてほしいです。



【授業の板書】

切り取り

道徳だよりへのご質問・ご感想

()年 ()組 児童名 ()

